わらびじゅく 笑楽日塾だより

２０２５年４月号
２０２５．４．３０
第８６号
発行：笑楽日塾（わらびじゅく）

笑楽日塾はＳＤＧｓを応援します。

荒井塾長あいさつ

「 忙しい３月」

　皆さんは厳しい冬を乗り越えて、春を待ちながら、３月はどのように過ごされましたか。リタイアして俺には年度末は関係ないと思っていたが、そうではなかった。今年の３月は、まず笑楽日塾記念誌 7 号を仕上げなければならなかった。原稿はほとんど八木さんがまとめてくださったが、これを表紙から本文、最後の裏表紙まで 114 頁を間違いなく揃えて、印刷会社へ頼まねばならない。目の前に相手がいて、説明しながら、念押ししながら頼むのならばいいのだが、相手はパソコンの中にいるので、こちらの好きなように出来ない。相手の言う通りに打ち込んで行かないと最終目的地へ着かない。一つでも間違えると、ページが狂って仕舞う。ナントカ無事に入稿して印刷結果を待つ。何か間違っていたらどうしようと心配になる。３月 13 日無事に 10 部配布できた。

３月８日　町会の集まり。９日マンションの集まり。15 日５つのマンション集まり。

３月 18 日　ゴルフの帰りに実家へ寄って、お彼岸の挨拶。

３月 20 日川口芝南公民館で「新幹線開業 60 周年記念講演」。昨年 10 月以来の講演なので講演前の準備とリハーサルに時間がかかってしまった。

３月 23 日　ゴルフ・栃木が丘カントリークラブで４組、毎朝練習に来るうるさい連中 16 人と Play し、夜は大庄水産で宴会。

3/27　わらてつまつり 2025 実行委員会。今年は７月 12 日～13 日に開催する。
いつも協力してくれていた大型模型ジオラマ展示、9mm（N ゲージ）電車運転設備担当のリーダーが重い病気で開催が危ぶまれる中、代案を検討中。ミニ新幹線電車走行は実施します。

3 月 30 日に町会(1691 戸)で 2019 年 11 月 23 日以来 5 年振りに餅つき大会をやることになった。5 年前は町会の長老が仕切ってくれた。そのうちの一人はコロナの中で亡くなって、もう一人は施設へ入られた。将来に備えて記録を取っておいたので役だった。写真もあった。
餅米 70kgを手配し、前日に餅米を洗っておく。70kg を臼で搗くのは何回か、何臼になるか、

それにどれくらいの時間がかるのか、手伝いを何人揃えれば良いかなど想定しておくべき事が一杯ある。この餅つきの準備に 2 月初めから取りかかった。雨が降ったらどうするか。
餅米は洗っておくし、あんこ 30kg、きな粉 20kg、大根 30 本(辛み餅用)などは使い切らねばならないので、雨天決行になる。
8 時半に男性陣 40 人集合、9 時半には女性陣 20 人が集合して作業開始。塾生では吉田さん、先崎さん、高木さん、内田さんが手伝ってくれた。

臼や杵を揃える、かまどを作りに 30 分、プロパンガスでお湯を沸かすのに 30 分。お湯が沸いたら蒸籠を乗せる。蒸し上がるのに 30 分かかる。蒸し上がったら電気餅つき器に移し、半殺し程度まで搗く。

その後臼へ移して杵で餅を搗く。10 分ぐらいして餅が出来上がり。トレーで餅づくりを待っているテーブルへ移す。 餅 3 個をあんこ餅・きな粉餅・辛み餅を 3 個ずつパック詰めする。全部で 600 パックになる。
餅のチケットを売る係、チケットと交換して餅パックを渡す係も動き始める。
子ども達 60 人ぐらいにイチゴ大福作りを体験して貰う。イチゴ大福作りは初めてなので、地元の和菓子屋・大和屋の職人に指導して頂いた。

流れ作業を続けて 12 時半頃終わる。その後、後片付けに約一時間。このボランティア作業は全て自分のためだと思ってやっている。時に「有り難う。お世話になりました」とお礼を言われる。 忙しい中で、また、終わった後でこの声を聴くのが一番嬉しい。

この餅つきには、地元の大庄水産が手伝ってくれた。大庄水産のインデネシア従業員が餅つきに来てくれた。母国へ戻ったインドネシアの若者が活躍する日を夢見ています。

最後に残った 3 月の作業は、笑楽日塾の通常総会(4 月 17 日)の資料づくりでした。
　塾生の皆様、8 年目に向かって ATM で毎月宜しくお願い致します。

2025年4月13日　笑楽日塾　塾会　報告

期日　2025 年4月17日(木)　17 時～19 時 20 分
会場　　蕨市内　秘密の場所
出席者　八木、先崎、吉田、内田、星、新井、高木、南、清藤、荒井　10名
欠席者　菊地

1. 令和 6 年度　笑楽日塾決算の監査会報告

4 月 4 日(金)10 時～10 時 30 分、わらびネットワークステーションにおいて、令和 6 年度笑楽日塾決算の監査会が、吉田氏が作成された決算書を基に、先崎氏、内田氏により行われ承認された。

立ち会い人：　八木、荒井

2. 令和 6 年度笑楽日塾　総会(17 時 20 分開会)

荒井氏、吉田氏が作成した総会資料を先崎氏が一冊にまとめられた。
その配付資料基づき 2024 事業報告、決算報告、2025 年度事業計画、予算計画を審議し、満場一致で承認された。

特別決議事項

菊地氏は休眠扱いとする。
荒川氏は休会中であることを認める。
体調が回復されつつある。

以上、令和 6 年度総会を終了した。

「シニアの風」

（順番制で行います。5月号は　内田　茂さんですので準備の程、宜しくお願い致します。）

「落語に学ぶ江戸の「そば文化」と時刻制度「不定時法」」

塾生　星　広行

落語好きの方にはあまりにも有名な演目に「時そば」があります。しかし、噺を理解するうえで重要な江戸時代の時刻制度を理解している方は少ないようです。時そばの元ネタは享保 11 年(1728 年)の笑話本『軽口初笑』の「他人は喰より」の中にあり、上方の噺家が「時うどん」として演じていたものを明治になってから、三代目柳家小さんが江戸噺の「時そば」に書き直した。その後は多くの噺家が江戸時代の風情と笑いを交えながら巧みに演じて楽しませ、数多い古典落語の中でも最も広く知られる演目の一つになった。

噺の中に出てくる「二八そば」の値段は享保の中ぐらいまで一杯六文から八文だったが、この噺の中では十六文になっている。倍になった一つの説としては享保の改革で物価が高騰したためとか。

落語「時そば」のあらすじは、「夜鷹そば」の二八そば屋を呼び止めた口達者な男が、「寒いねぇ」と愛想よくそばを注文する。出されたそばや箸を褒めちぎりながら食べ、いざ勘定となると。

そば屋:「十六文で」

男:「銭は細かいんだ、手を出してくんな」と言い、「一つ二つ三つ四つ五つ六つ七つ八つ」とそば屋の手の平に銭を乗せ、「今、何刻(なんどき)でぇ？」と聞く

そば屋:「九つで」

男:「十、十一、十二…十六」と数え、支払いが終えるとさっと去ってしまった。

これを見ていた「とんまでおっちょこちょいの与太郎」が、翌晩同じ手口を試そうとそば屋を呼び止める。

与太郎:「寒いねぇ」

そば屋:「昨夜は寒かったが、今夜はだいぶ暖かで」

与太郎は出されたそばが不味いとか、器が欠けているとか、いろいろ文句を言いながらもいざ勘定となり

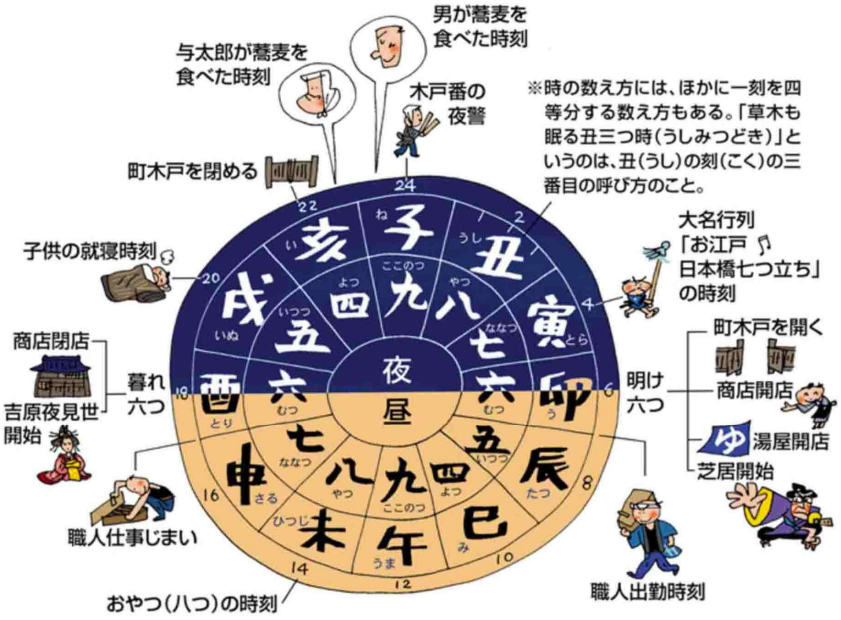
そば屋:「へい、十六文で」

与太郎：「銭は細かいんだ、手を出してくんな。一つ二つ三つ四つ五つ六つ七つ八つ…今、何刻でぇ？」
そば屋：「四ツで」
与太郎：「五つ六つ七つ八つぁぁ・・・」
　落語「時そば」は、口達者で手際の良い男が「今、何刻（なんどき）でぇ？」と聞くことでそば代を1文ごまかすトリックの絶妙さと、これを見てまねした与太郎が江戸時代の時刻制度「不定時法」の罠にかかり、四文も損をしてしまうという滑稽な話。

≪江戸時代のそば文化（コトバンクを参照）≫

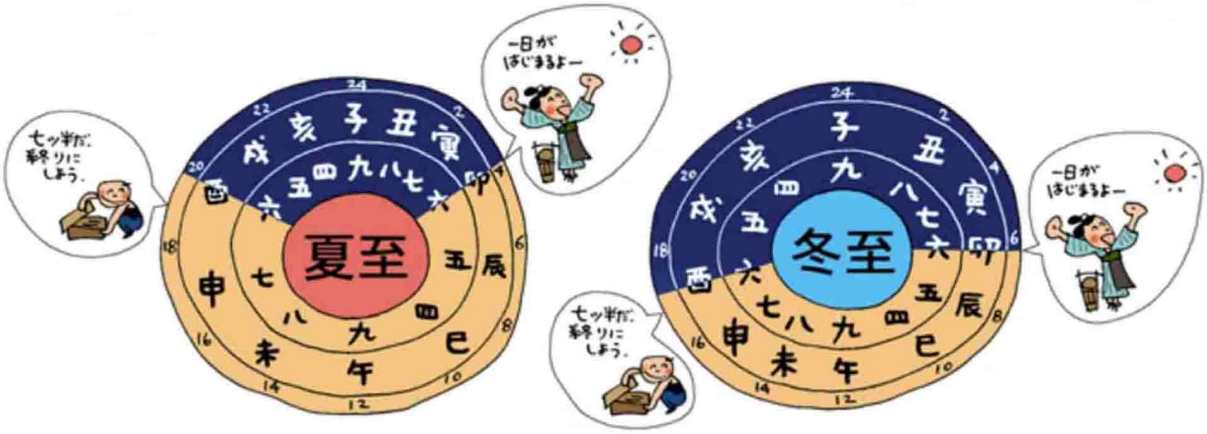
　江戸時代の屋台そば（夜鷹そば）は、忙しい江戸っ子にとって欠かせない存在でした。そばが人気になった理由としては、「手軽に食べられる」「胃にやさしく夜食に最適」「栄養の面でもビタミン B1 が含まれ、脚気予防にも効果的」とされ、江戸っ子にとっては人気のファストフードになった。
　「二八そば」の名前の由来は「そば粉 8 割、小麦粉 2 割」説と「そば一杯 16 文（2×8＝16）」説の二通りがあるが、噺に出てくるそばの値段は 16 文なので後者の説の方が話の内容に合っている。
当時の物価は「うなぎの蒲焼 100 文」「一日の人足賃金 400 文」「風呂屋の入浴料 12 文」「米一升（約 1.8kg）100 文」で、そば一杯は現代でいう「牛丼 1 杯」くらいの価格とか。

≪江戸時代の時刻制度（お江戸の科学を参照）≫
江戸の時刻制度では、日の出と日没を基準とする不定時法が使われていた。日の出およそ 30 分前を明け六つ、日没およそ 30 分後を暮れ六つとし、その間を昼夜それぞれ六等分して一刻（いっとき）とした。



時刻の呼び方には、十二支と数が使われている。数は九つから四つまで下がるとまた九つに戻る。この数え方が「時そば」の落ちのミソ。与太郎はほんの少し早い時刻にそばを食ったため、
　九つと四つの違いで、四文も損をしたのだ。

常に日の出のおよそ 30 分前を明け六つ、日没のおよそ 30 分後を暮れ六つとしたこの不定時法では、一刻の長さが、昼と夜で、また季節によっても違ってくる。しかし、江戸の人々の生活にはそれで何の不便もなかった。人々はこうした時刻を、各地に設けられた時の鐘の音で知った。



以上

八木　守

4月です。

4 月の代表的な異称「卯月（うづき）」の意味・由来は、卯の花が盛りを迎える時期なので「卯月」になったといわれています。卯の花とはウツギの花のことをさし、新暦の今は 5 月～6 月に開花します。

また、「うづき」の「う」は、苗を植える月という意味の「植（う）」、「初」「産」を意味する「う」などの説もあります。

ちなみに、大豆食品の「おから」のことを「卯の花」と呼ぶのは、白い色が卯の花に似ているからだそうです。

4 月の異称

「花残月（はなのこりづき／はなのこしずき）」

旧暦の 4 月は今の 5 月頃なので、ほとんどの桜は散ってしまいますが、山あいなどにまだ桜の花が残っている様子から「花残月」という異称がつきました。

「鳥待月（とりまちづき）」

渡り鳥のホトトギスが渡ってくるのを楽しみに待っていることを表しています。ホトトギスは『万葉集』をはじめ最も多く和歌に詠まれた鳥で、ホトトギスの初音（はつね）を心待ちにしていました。

「木葉採月（このはとりつき）」

「木葉採月」の木葉は桑の葉をさし、蚕に食べさせるための桑の葉をとる月という意味です。

「清和月（せいわづき）」

空は晴れて清々しく和やかな時期を表しています。

毎月の名前に「異名」がこんなにもあるとは知りませんでした。異名一つひとつに季節感があり、日本の文化は素晴らしいと思います。若い人たちからは段々と忘れ去られていくかも知れませんが残しておきたい文化ですね。

以上

＊今、ハマっている水彩画。4月に描いたものをお届けします。

五月武者人形、紫陽花、能舞台（女面）をはがきサイズの水彩画用紙に描きました。

五月武者人形

紫陽花

能舞（女面）